

調査研究報告書の要約

書名	平成 22 年度 ISO/TC199 部会成果報告書				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会				
発行年	2011 年 3 月	頁数	356 頁	識別	22 事 1

[目次]

はじめに

- 1 章 ISO/TC199部会の目的
- 2 章 ISO/TC199部会構成表
 - 2. 1 組織体制
 - 2. 2 ISO/TC199部会委員名簿
 - 2. 3 国際規格関係 WG 委員名簿
 - 2. 4 JIS 原案作成 WG 委員名簿
 - 2. 5 リスクアセスメント協議会
 - 2. 6 ISO/TC199 国際委員会組織
- 3 章 ISO/TC199部会及びWG 開催一覧
 - 3. 1 ISO/TC199部会開催状況
 - 3. 2 国際規格対応 WG 開催状況
 - 3. 3 JIS 原案作成 WG 開催状況
 - 3. 4 リスクアセスメント協議会
 - 3. 5 国際会議出席状況
- 4 章 平成 22 年度国際規格審議及び JIS 原案の作成
 - 4. 1 本年度審議した国際規格及び審議内容
 - 4. 1. 1 発行された規格
 - 4. 1. 2 DIS(国際規格案)関連－ISO/DIS13849-2, Safety of machinery－Safety-related parts of control systems－Part 2: Validation
 - 4. 1. 3 CD(委員会原案)関連
 - 4. 1. 4 NWIP(新規作業項目)関連
 - 4. 2 統合生産システム調査研究 WG について
 - 4. 3 リスクアセスメント協議会
 - 4. 4 JIS 原案の作成

おわりに

付録1 国際規格案等

付録1(その1) ISO/DIS 13849-2 Safety of machinery－Safety-related parts of control systems－Part 2:Validation

*この規格案については、(財)日本規格協会で購入できるので掲載していない。

付録1(その2) ISO/2ndCD14119 Safety of machinery－Interlocking devices associated with guards－Principles for design and selection

付録1(その3) ISO/CD13856-1 Safety of machinery－Pressure-sensitive protective devices－Part 1: General principles for design and testing of pressure-sensitive mats and pressure-sensitive floors

付録1(その4) ISO/CD13856-2 Safety of machinery－Pressure-sensitive protective devices－Part 2:

General principles for the design and testing of pressure-sensitive edges and pressure-sensitive bars

付録1(その5) ISO/CD13856-3 Safety of machinery-Pressure-sensitive protective devices-Part 3:
General principles for the design and testing of pressure-sensitive bumpers, plates, wires
and similar devices

付録2 参考資料

付録2(その1) ISO/TC199/WG8 Draft Report of 5th meeting

付録2(その2) ISO/TC199/WG8 Draft Report of 6th meeting

[要 約]

本部会は、平成4 年度に設置され、本年度でおよそ19 年間の歴史を持つこととなった。ISO/TC199 (機械類の安全性)は、当初、欧州で開発されたEN (欧州規格)を一地域の財産として保有するのではなく、ISO として世界各国の共通財産とすべく設置された。現在では、この欧州規格をISO 化する段階は1 サイクルまわり、本TC の主な作業は、これら規格のメンテナンスが中心となっている。このサイクルにおいて、欧州はEU 指令の枠組みを離れることはなく、新たな規格の開発には、我が国をはじめとした第3 国の貢献が必要となる。このことは、国際社会への貢献—規格を世界の共通財産とする—の意味とともに、我が国の技術を世界に広めることができるということを原則、意味する。

標準化活動は、1 年ごとにすべてが完了するわけではなく、数年継続し、その最終成果として規格化がなされるわけであるが、本部会が、本年度に取り扱った国際規格は、FDIS が1 件、DIS が3 件、CD が4 件、NWIP が5 件、定期見直し案件が4 件であり、発行された規格は8 件であった。日本工業標準 (JIS 原案/ TR 原案) 案件については、1 件の原案作成が終了し、正式にJIS として発行された。

本書は、上の国際規格のうち実質的に審議可能であった9 件、また調査研究テーマとして統合生産システムのTR 作成について検討した内容について報告するものである。